

2013年度 愛輝幼稚園 自己評価結果公表シート

学校法人大阪福島キリスト教学園

愛輝幼稚園

1. 本園の教育目標

お友だち、保護者、教師、地域の方という、子どもたちが関わる人々、そして自分自身を大切に思うキリスト教の愛の精神を保育の源泉とし、決まった型に押し込めるのではなく、一人ひとりとじっくりと接する。また、進んで身近な人とかわり、愛情や信頼感、自分以外の人に共感する力を持ち、社会生活における望ましい習慣や態度を身につけ、子どもたち一人ひとりが持っている発達する力を引き出す援助をねらいとする。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

評価項目に沿って、自己評価および、教員同士が相互に評価することによって、幼稚園教諭としての資質を高める。また、子どもたちへの安全への配慮、家庭との連携を深める。

3. 評価項目の達成および取組状況

取り組むべき課題	取組状況
教員の資質、および指導能力の向上をはかる。 ・保育の計画性について	・教育要領、キリスト教保育誌を用いて、年、学期、月、週、日毎に保育案を作成し、それを教員同士にて協議を重ねて検討し、実践、報告、反省という流れを持って、今、目の前にいる子どもたちに、何を提供するのかを考えている。計画通りにいかないこともあるが、報告、反省、そして、計画の繰り返しによって、より良いものを目指している。
・教員の研修について	・各教員が大阪府私立幼稚園連盟、大阪市私立幼稚園連盟、キリスト教保育連盟、各種民間業者の行う研修に積極的に参加した。 また、ただ参加するだけではなく、報告書を作成し、それを教員が回覧することにより、情報、成果の共有化を図った。学んだことを日頃の保育に活用することができるよう努力している。
・外部講師による研修	・絵画制作および運動に関しては外部の講師を招き、子どもたちに直接指導をしていただくことに併せて、教師に向けての園内研修も行った。日頃の保育の中において疑問に思ったこと、困難を感じたことに対しての専門家からの指導をいただき、子どもたちへより適切な指導をすることができるように心がけた。

<p>子どもたちへの安全への教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園バスのない当園では、徒歩もしくは自転車での送迎が主であるが、その登園・降園時の交通マナーが課題となっている。近隣の方への配慮、地域の方たちへの配慮が必要となる。それに関して、子どもたちへの指導、保護者の方への注意喚起は行ってきたが、まだまだ、課題が残っている。 ・災害に備えた防災マニュアルの見直しをはかり、保護者の方との連携をより確実に取ることができるよう努力する。
<p>家庭との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育内容や子どもたちの園での様子を知っていただくために、インターネットによる会員限定の写真公開、販売を開始した。参観や公開行事では伺うことのできない、普段の様子を知って頂くよい機会になっていると考えている。 ・写真掲載は昨年度よりは、定期的に行うことができたが、行事の集中する季節などは、どうしても掲載枚数が膨大になることがあり、今後の課題となる。 ・園だより、クラスだよりを通して、保育内容を少しでも詳しく知っていただくことができるよう努めている。 ・一斉メール送信システムを利用した、保護者への通知がある程度、浸透してきたように思う。 <p>また、Facebook の活用により、ホームページよりも、少し柔らかい形で、子どもたちの様子を伝える事ができるよう心掛けた。ただ、更新頻度にばらつきがあるため、こちらも次年度からの課題となる。</p> <p>なお、次年度にホームページの大幅なリニューアルを行い、より、園の様子を多くの方に見て頂けるよう工夫していきたい。</p>
<p>預かり保育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、通常の預かり保育、夏期預かり保育ともに多くの方にご利用いただいた。これは保護者の仕事や用事がある際に利用されることはもちろんだが、子どもたち同士の交流の場ともなり、預かり保育ならではのゆっくりとした時間の中で、様々な遊びが発展していく光景も見ることができた。 <p>また、小学校の参観日等に配慮することができるよう、園の行事等で行っていなかった日にも、短縮ではあるが、預かり保育を行うようにした。今後も、小学校行事との兼ね合いなどを考慮し、継続していきたい。</p>
<p>環境設備の充実を図る</p>	<p>大がかりな改修工事等は行わなかったが、おもちゃだな等、保育室内の設備の充実を図った。子どもたちの安全を考えつつ、整った環境をめざし、次年度以降も取り組んでいきたい。</p>

4. 学校評価の具多的な目標や計画の総合的な評価結果、および今後取り組むべき課題

・教職員は各クラスの実態の把握、そこから、保育案の作成、実施、反省と一連の流れの中で保育を行うことができた。その中で、園児一人一人に必要な援助を、研修や園内の協議で分かち合ったことを踏まえ、実践するよう努めている。目標に対して、準備が万全でないこともあったが、教職員同士のフォローで乗り越えることができた。

また、保護者の協力を得つつ、それが子どもの育ちにつながるようにと努力した。ただし、保育案作成からの一連の流れに関しては、常に自身の振り返りを忘れてはならないということを確認しながら進めていった。

ただ、事前の準備をより入念に行うことにより、行事だけでなく、通常の保育も更に充実させることが可能であるため、今後より一層の努力を重ねる必要がある。そのためにも、園長以下、主任、担任、補佐の職務を都度確認し、連携を強めていく必要がある。

・子どもたちへの安全への教育に関しては、常に大きな課題となっている。徒歩・自転車通園が多くを占める当園の付近は車の交通量が多く、安全に対する注意喚起はしすぎることはないと考えている。

・家庭との連携に関しては、これからはより、「保育の見える化」を図っていきたいと思う。登園・降園時のコミュニケーションは勿論だが、ホームページ、写真掲載、Facebook等を用いて、より、多くの必要な情報を保護者の方たちと共有することができるよう、十分な情報提供を行っていききたい。

・災害マニュアルに関して、現在検討を重ねているが、情報を正確に把握し、より、安全性が高まるものを制作していききたい。

・預かり保育 特に夏期預かり保育に関しては目標を達成できていると考える。

・設備の充実に関しては次年度も理事会と連携を図りつつ検討していく。

5. 学校関係者評価

特に指摘する点はなく、妥当な評価であると認められる。

6. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。